

中標津町郷土館だより 第21号

レールがなくなって20年

発行:平成22年1月31日

発行所:中標津町教育委員会

標津郡中標津町丸山2丁目22番地

電話:教育委員会 (0153-73-3111)

郷土館 (0153-72-2190)

<http://www.nakashibetsu.jp/kyoudokan-web/index.htm>



標津線の開通前、開拓地における交通運輸機関の主軸は北海道庁による殖民軌道でした。しかしその動力は馬(一部路線ではガソリンカー)であったため、開拓が進むにつれて増加する物資や産物を大量に運ぶことは困難であり、また住民の利便性のためには恒久的な交通機関として鉄道の建設が待望されていました。

たび重なる請願、そして路線決定をめぐる地域間の紛争などを経て、昭和9年10月1日に支線である厚床～中標津間が開通(69.4km)、昭和12年10月30日に標茶～根室標津間の本線(47.5km)が開通し、標津線は全線(116.9km)開通となりました。

客車と貨車を連結した混合列車は、連日のように多くの人びと、山と積み上げた木材や農産物を運び、原野の開拓を一層進めました。

しかし昭和40年代に入ると、道路網の整備や自動車の普及とともに鉄道の利用は減少します。そして年々赤字の増加するローカル線は次々と廃止されていくようになりました。

もともと原野開拓が目的だったため赤字解消の難しい標津線は、反対運動もむなしく平成元年4月29日に廃止となり、住民の交通機関はバスへと転換されました。

標津線は、56年間にわたって沿線住民の生活を守り、心の支えとなり、日本一の酪農地帯を生み出す基礎であり原動力でもあったといえます。



今



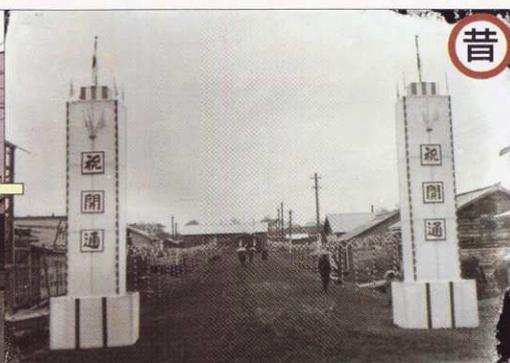
昔

【建設列車がきた!】

昭和9年撮影
 *南2丁目通りを「あるる」から文化会館へ向けて
 平成元年まで、現在の南2丁目通りには線路が敷かれていました。
 写真左側の煙突が3本ある建物(貨物の後ろ)は機関庫です。



今



昔

【標津線の開通当時】

昭和9年撮影
 *日駅前通りを南方向へ
 標津線の厚床～中標津間開通を祝ってアーチが建てられました。
 開通前夜から雨でしたが、たくさんの人で賑わったそうです。奥に見えるのは初代中標津駅舎です。



今



昔

【貨車とビートの山】

昭和10年頃撮影
 *南2丁目通りを東方向へ
 写真の前方に駅舎がありました。
 貨車の傍らにはビートが山と積まれています。
 1枚目同様、左側に写っている煙突が3本ある建物は機関庫です。



今



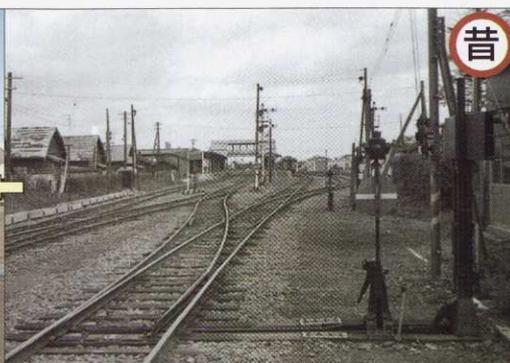
昔

【標津殖民地産業組合事務所新築落成】

昭和9年8月9日撮影
 *南2丁目通りを文化会館から「あるる」へ向けて
 この写真の撮影から約2ヶ月後に標津線が開通します。開通祝賀会と祝宴はこの建物を会場として盛大におこなわれました。



今



昔

【かつては駅構内】

東2条南3丁目付近
 *昭和43年秋以降に撮影
 写真中央に写っているのは線路の上を横切ってかけた跨線(こせん)橋です。
 写真左側に見える建物は鉄道官舎(職員の住宅)でした。この時、中標津駅舎は2代目になっていました。

中標津町鉄道関係年表

西暦	元号	中標津周辺の出来事	殖民(簡易)軌道	標津線
1919	大正8年			・厚床～厚床間が開通
1922	大正11年			・標津線が建設予定線となる。が、予算は計上されず着工は未定に…
1925	大正14年		・厚床～中標津間開通(日本初)	・「厚床より標津に至る線 標津線」として着工が決まる
1926	昭和元年		・中標津～標津間、中標津～計根別37線間開通	
1927	昭和2年	北海道農事試験場根室支場(現在の根釧農試)建設	・計根別37線～計根別間開通	
1929	昭和4年		・中標津～厚床間にガソリンカー運行	・標津線の測量(海岸線)が開始される→その後内陸線の比較測量が入る
1931	昭和6年	大凶作(昭和7年も)		・路線は内陸線に決定し、厚床～奥行臼間から工事が順次進められる
1933	昭和8年	酪農への転換はじまる	・厚床～西別間廃止	・厚床～西別間が開通(12月1日)
1934	昭和9年	酪連中標津工場新築落成	・西別～中標津間廃止(以降は開陽～標津の運行となる) ・中標津駅、計根別駅へそれぞれ延長線敷設	・西別～中標津間が開通(10月1日)
1935	昭和10年			
1936	昭和11年			・標茶～計根別間が開通(10月29日) ※この時は標茶線、後に標津線となる
1937	昭和12年	計根別市街点灯	・中標津～計根別間廃止 ・根室線1次(開陽～標津)廃止 ※中標津～開陽間は運行組合にて運営	・計根別～標津間開通により標津線が全線開通となる(10月30日) ・中標津保線区開設
1938	昭和13年		・養老牛線開通	・斜里～越川間(根北線)工事に着手
1939	昭和14年			・吹雪のため8日間不通になる
1940	昭和15年			
1941	昭和16年			・斜里～越川間(根北線)建設中止となる
1942	昭和17年			
1943	昭和18年	大 平 洋 戦 争	・中標津～開陽間廃止(空港建設のため)	・計根別～西春別間より計根別飛行場へ岐線設置(5月)
1944	昭和19年		・根室線2次(開陽～中央武佐～上武佐)が開通	・泉川、東標津に信号所を設置(5月1日)
1945	昭和20年			・空襲(列車転覆し機関士死亡) ・東標津岐線・信号所廃止(9月1日)
1946	昭和21年	標津村から中標津が分村		・豪雨により全線不通になる(7月21日)
1949	昭和24年			・日本国有鉄道発足
1950	昭和25年	中標津町制施行		
1952	昭和27年			・泉川信号所が一般駅になる(3月25日)
1954	昭和29年		・根室線2次廃止	
1955	昭和30年	中標津、開陽、俣落間に阿寒バス運行開始		
1956	昭和31年	パイロットファーム事業の入植開始		・中標津～上武佐間で混合列車が脱線転覆事故(3月5日)
1957	昭和32年			・標津線全線に気道車が運行される(キハ03、キハ05) ・協和駅(無人)が設置される(12月25日)
1958	昭和33年	中標津大橋完成		・中標津保線区廃止(10月1日) ・泉川駅舎改築
1959	昭和34年	北日本航空が札幌～中標津間を定期飛行開始		・全線キハ05化(3月16日) ・当幌、上武佐、奥行臼駅が委託駅となる(4月1日)
1961	昭和36年	中標津駅前広場の整備工事が着工される	・養老牛線廃止	・泉川駅の貨物取り扱い廃止される ・多和、開栄の乗車場開設
1962	昭和37年			・準急「らうす」(第1:中標津～標茶、第2:釧路～中標津)運行(5月1日)
1963	昭和38年			・中標津機関車駐泊所で火災が発生し車両3両が消失 ・標津線管理所、標茶保線区、中標津交換所が廃止される ・上春別駅(無人)を開設
1966	昭和41年			・急行「くなしり」(釧路～中標津)が運行(3月5日) ・準急「らうす」が急行に格上げとなる
1967	昭和42年			・平糸、光進駅(共に無人)を新設する ・根室標津線が改築される ・標津線全線開通三十周年記念式典開催
1968	昭和43年	国鉄標津線廃止反対期成会を結成(9月21日)		・当幌駅が委託駅から無人駅になる ・中標津駅、ご線橋新築される(11月21日) ・中標津保線が支区から支所となる(12月15日)
1969	昭和44年			・中標津保線支所が再度支区となる
1970	昭和45年			・急行「しれとこ」が快速化される
1975	昭和50年			・標津線のSLが廃止され、完全にディーゼル化となる(4月25日)
1976	昭和51年			・西別駅が改築され、「別海駅」と改称される(12月1日)
1978	昭和53年			・厚床駅の貨物取り扱いが廃止される
1979	昭和54年	中標津市街バス運行開始		・標茶～計根別、厚床～別海間の線路が冠水(4月9日～11日までに49本運休)
1980	昭和55年	中標津町役場新庁舎完成 国鉄再建法案成立		・西春別、計根別、上武佐、川北、標津、春別、別海、奥行臼駅の貨物取り扱い廃止 ・急行「しれとこ」3・6号がローカル化される
1982	昭和57年			・中標津駅の貨物取り扱いを廃止(11月15日)
1984	昭和59年			・標津線の荷物、貨物取り扱いが全面廃止となる(2月1日)
1985	昭和60年			・標津線を含む赤字ローカル線の廃止を運輸大臣が承認(8月)
1987	昭和62年			・JR北海道発足(4月1日)
1988	昭和63年			・アルファコンチネンタル号で広陵中学校の団体輸送をおこなう
1989	昭和元年	標津線の転換バス運行開始		・標津線廃止(4月29日)

